

「運動部活動における中高連携の現状」

大畑 賢寛 (雄 山・スキー) 貫和ゆか子 (富山中部・バドミントン)
江田 亨 (高岡第一・ラグビー) 水口 真一 (富山第一・弓 道)
藤本 聡司 (富山西・フェンシング) 佐藤 公治 (滑 川・ウェイトリフティング)
長森 和久 (富山東・バスケットボール)

はじめに

我々第3分科会では、県内の競技力向上や競技の普及などについて「現状はどうか」また「改善点はないのだろうか」という視点で考えてみました。

ある専門部から「技術や能力に差があるのは当然のことながら体格にも差があり、また中学と高校では日程的にもスケジュールが折り合わない」ため、中・高の連携はとれておらず高校入学後の指導には苦慮している部分がある、という意見がありました。各専門部がそれぞれの競技における現状を報告し合い、また県内各競技専門部の意見を集約してみることになりました。以下は各専門委員長へお願いした質問である。

<質問1>

現在、中高連携で行っている大会や練習会または指導者交流会などがありますか。

(時期や規模などについてもお答え下さい。また、何もない場合は行われていない理由を書いてください。)

<質問2>

中学校との連携においてはうまく行われていると思いますか。答えとその理由。

<質問3>

貴専門部で、競技人口確保や強化のために工夫・実践していることはありますか。

(例：競技普及選手確保・・・中学生を対象に高校生が競技指導 年10回)

<質問4>

貴競技の中高連携の在り方についてどのようにしていけばよいと思いますか。

(今後、実践してみたいこと、また、計画していることも含めて)

競技の特殊性、競技人口、練習環境など様々な条件が異なるため、事情の詳しくない専門部外の我々には一概に言えないが、次のようにまとめてみました。

運動部活動における 中高連携の現状

富山県高体連研究部会
第3部会

ケース1 冬季合同練習会

◎対象 高校生1～3チーム(約50名)
全県下の中学生(約200名)

◎目的 高校生と一緒に練習を行うことで、取り組む姿勢や技術を見て、聞いて学ぶ。

◎指導者 高等学校指導者(公認資格指導者有り)

◎内容

- ・グループ別やポジション別に分かれ、基礎基本技術の練習
- ・高校生が師範やアドバイス
- ・体力づくりやトレーニングの紹介

代表的な例

種目	富山県高体連研究部会				備考
	指導者	会場	参加者	実施時期	
1 サッカー	○	○	○	○	指導方法の確立 女子スクールの推進 スケジュールの調整
2 ソフトボール			○	○	実業団や公認指導者を活用
3 バレーボール			○	○	ジュニアの指導者や選手を活用
4 テニス			○	○	ジュニアの指導者や選手を活用 指導者の育成 指導者の育成 指導者の育成
5 剣道			○	○	指導者の育成 指導者の育成 指導者の育成
6 柔道			○	○	指導者の育成 指導者の育成 指導者の育成
7 ヨーヨー			○	○	指導者の育成 指導者の育成 指導者の育成

↓

中高連携がとれている。

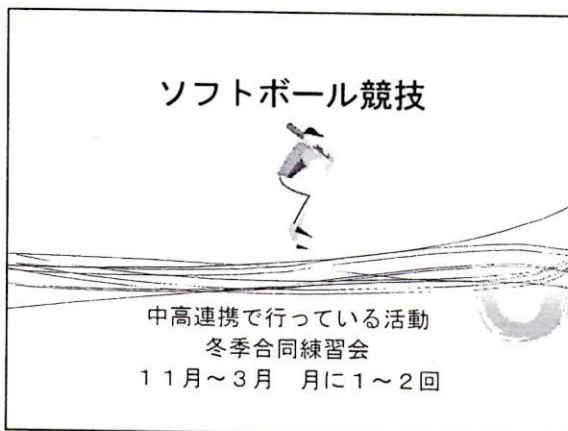
ケース2 冬季合同練習会

◎対象 高校生1～3チーム(約60名)
中学生選抜チーム(約30名)

◎目的 中学選抜チームの強化

◎内容

- ・高校チームと中学選抜チームの練習ゲーム
- ・ケースを設定しての練習
- ・合同でのウォーミングアップやクールダウン



その他の交流事業

- ・実業団、団体成年チーム選手によるクリニック

☆元々、高体連・中体連それぞれで行っていた事業に高校や中学が参加する形になった。

～メリット～

- ・中高ともに競技に対する知識や経験が少ない指導者も多く、練習方法やトレーニングを教わることができる。
- ・統一した指導理念で、一貫した技術指導ができる。
- ・高校生は原点を見つめ直し、中学生は高いパフォーマンスを肌で感じ刺激を受ける。
- ・指導者間の交流や情報交換も行われ、指導者のレベルアップに繋がる。
- ・中学指導者が高校生に技術的な質問をするケースもある。
- ・高校での体験入部的な感覚で、競技を続ける意欲が高まる。

サッカー専門部

1 国民体育大会に向けてのU-16トレセン (協会関係事業)

期 日 通 年

指導者 中学校(中体連、クラブ)の
技術委員と高校のトレセン担当者

内 容 国体に向けて、県外遠征や合宿、
U-18サッカーリーグ(高校年代)
参加

～デメリット～

- ・公に行う場合は、場所に対して人数の割合が多くなってしまい、内容や運動量が縮小されてしまう。
- ・練習会に参加の有無で不公平感をもたれる場合がある。

2 高校の指導者による 中学生のサッカースクール

期 日 通 年(週1回)

指導者 高校の指導者とクラブ(中学年代)の
指導者

内 容 地区の中学校のサッカー部員とクラブ
(中学年代)を対象に、サッカーの
技術指導を行う。

～今後の課題～

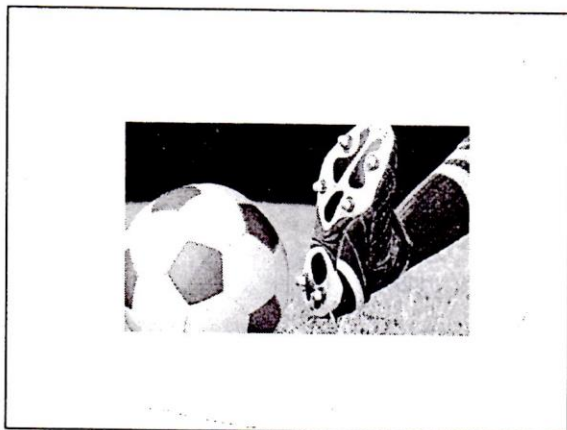
- ・県協会と協力して小規模(地区別など)での練習会を実現したい。
- ・本来は小・中・高と段階に応じた一貫指導体制(サッカーのようにチーム単体の垣根をなくした年代別の指導体制)がベストだと思うが、中体連、高体連として教育現場だからこそ深く入り込める指導があることも間違いではないと思う。

3 連携の現状

サッカー競技では、年代別のカテゴリーの強化プランが確立されている。(日本サッカー協会)。どの年代でどのような技術、どのような戦術を身につけておくか。一定の指導マニュアルがあるので、年代を超えた選手に対しても指導がしやすい。

また、中高各チーム単位での合同練習や練習試合など交流も盛んに行っていることから、いろんな立場の指導者に接することに選手は戸惑うこともない。

選手は、多くの指導を受けたい要求があり、うまく機会を作ることにより効果があると思われる。



11月～3月
合宿期～試合期

ある限られたコースに集中
選手の競技力向上
コース状況やワックス情報

情報の共有

↓
一貫指導

限られた練習環境

その他の競技
カヌー
ボート
体操競技
水泳 etc

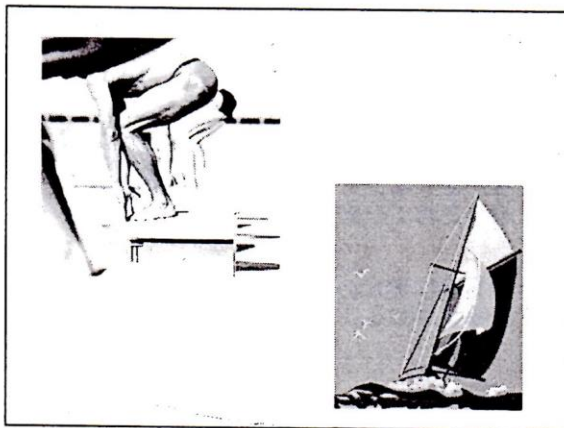
特殊な例

競技	連携がとれている上練習				特別指導 関係者・関係校
	技術人口の多い練習場	大会・練習場	全国練習場	指導者交流	
1 スキー		○	○	○	合同練習
2 ボート		○	○	○	選手層の豊富さ等の練習場も関係
3 ボート		○	○	○	強化指導の実施
4 カヌー		○	○	○	中・高とも各校の指導者の練習場
5 体操		○	○	○	

限られた環境での指導・練習。中高生が同じ指導を受けている。

↓

結果として、中高の連携がとれている。



スキー競技

4月～10月
オフシーズン

スキー場など起伏地での練習
ローラースキー練習
合同で練習する機会が多い
指導者会議や技術練習会 実施

例えば

小学生ジャンパー → サマージャンプ台 → 高校大学生ジャンパー
↓
中学生ジャンパー

各指導者

専門部企画外

競技	連携がとれている上練習			連携がとれていない上練習			特別指導 関係者・関係校
	技術人口の多い練習場	大会・練習場	指導者交流	技術人口の多い練習場	大会・練習場	指導者交流	
1 バスケットボール		○		×			・富科の協力体制あり ・個人での交流あり
2 バレーボール				×	×		・兼務関係で交流なし ・学校単位で指導者間の交流あり
3 バドミントン		○	○				指導者層が少く練習場も少ない

専門部として特に競技人口や強化のために行っていることはない

↓

さほど連携が活発ではない。

「バスケットボール」 競技

専門部主役で中学と高校の連携はない。

地区協会主催のカップ戦で行っているところがある。


「連携」ではないが、専門部あるいは地区協会主催を問わず各大会では審判として運営協力する体制ができており、その中で意見交換などが頻りに行われているようだ。

個人的に意見交換や助言という形で特に地区内では見られるが、全体として行っているものはないので、中学校との連携は上手く行われているとは言えない。ただお互いに「不可侵」という暗黙の了解のもと着信層の交流は行われていると感じる。

専門部として競技人口確保や強化のために工夫あるいは実施しているものはない。

「中高連携」として実践してみたいことは次に挙げることを考える。

- ◎「指導者講習会」
実技指導として高校生を補助員とする。あるいは座学研修として中学・高校指導者同志の意見交換の時間を設ける。
- ◎「中学生の高校への練習参加あるいは見学会」
希望する高校をとりまとめ、中学へ提示し中学生が選んで参加する
- ◎中学・高校の大会の決勝を同じ会場で実施する。



「バレーボール」 競技

「JOC杯」中学選抜チームと高校の合同練習や試合などを行っている程度で、その他は中学校単位で練習試合などを行う程度。

専門部としては中学との連携を回りたいが「通路」等の問題がネックになり上手くできていない。

専門部として特に競技人口確保や強化のためにやっていることはない。


「中高連携」として実践してみたいことは次に挙げることを考える。

- ◎「指導者講習会」
各地区に高校・中学の指導者が集まり、中学生や小学生の練習を見る。
- ◎地区対抗試合 など

連携がとれていない

競技	連携がとれていない理由					特別事項 競技人口減少
	競技人口	部活動	指導者講習	合同練習	見学会	
ラグビー						中学校より減少
空手	○					競技人口が少ない 高学年選手層の厚み確保を要
柔道	○					中学に馴染がない 協会よりジュニア種別練習を要
少林寺	○					中学に馴染がない ジュニア種別練習を要
柔道	○					中学に馴染がない
空手	○					中学に馴染がない
剣道	○					中学に馴染がない
バドミントン	○					中学に馴染がない 部の運営や部員との交流
水泳						専科に習熟 顧問が少い。夏休みの海外での練習
テニス						指導者層での連携が練習を要

競技人口が少なく・部活も無い



＜ 特記事項 問題点・工夫など ＞

競技	連携がとれている				連携がとれていない			
	競技人口	年代区分	各団練習会	指導者交流・情報交換	競技人口	年代区分	各団練習会	指導者交流・情報交換
1 サッカー		○	○	○				
2 レスリング			○	○				
3 ウエイトリフティング			○	○				
4 ヨット			○	○				
5 ボート			○	○				
6 カヌー			○	○	×			
7 剣道			○	○				
8 なぎなた			○	○	○			
9 体操			○	○	○			
10 スキー			○	○	○			
11 ラグビー						×	×	×
12 空手			○	○	×			
13 バスケケットボール				○			×	
14 バレーボール				○			×	×
15 ゴルフ		○	○	○	×			
16 ライフル射撃					×			
17 自転車					×			
18 ソフトテニス			○	○				
19 ソフトボール			○	○				
20 ハンドボール			○	○				
21 アーチェリー					×		×	
22 登山					×			
23 弓道					×		×	
24 ホクシング			○	○	×			
25 水泳							×	×
26 テニス		○			×			
27 バドミントン			○	○				

指導方法の確立 女子スクールの推進 スケジュールの適密
 ジュニアの指導を高校生が実施
 トレーニング教室の実施 中学生へのスポーツ教室の開催予定
 県セーリング連盟主催の講習会を実施
 強化各団の実施
 中・高とも1校のみ 年数回の練習会
 小中高教員の稲古会・中高強化練習会の実施 大会審判員の相互派遣
 県なぎなた連盟主催の強化練習会を実施
 合同練習
 中学生には危険
 競技人口が少ない 県空手連盟主催の強化練習会を実施
 審判の協力体制あり 個人での交流あり
 連絡関係で交流なし 学校単位で指導者間の交流あり
 中学に部活がない ジュニア強化練習会
 中学に部活がない
 中学に部活がない
 実業団や公認指導者を活用
 指導者問題々々の練習会を実施
 中学に部活がない 指導者がいない
 中学に部活がない
 指導者が少ない
 中学に部活がない 市の連盟やジムとの交流
 高校に部活・顧問が少ない スイミングクラブでの練習
 中学に部活が少ない 協会とのジュニア強化練習会を実施
 指導者間での個々の練習会を実施